

# 社会に開かれた教育課程の実現に向けて

～学校・地域連携カリキュラムを生かすには～



# ▶▶ 本日の内容

▶▶ 全ての公立小・中学校，高等学校，特別支援学校が  
コミュニティ・スクールに！

▶▶ 社会に開かれた教育課程の実現のためのツール  
「学校・地域連携カリキュラム」  
「熟議」



# ▶▶ 県立・公立全ての学校が コミュニティ・スクールに！

## 学校だけでは解決が難しい課題の増加

人口減少

学力不振

学校の荒れ

地域とともにある学校をつくる  
個に付くカリキュラム⇒地域に付くカリキュラム

学校支援

学校運営

地域貢献

H28

## 全ての公立小・中学校がコミュニティ・スクールに！



# コミュニティ・スクールにすればなんでもうまくいく!?

対象学校の校長は、当該対象学校の運営に関して、教育課程の編成その他教育委員会規則で定める事項について**基本的な方針を作成**し、当該対象学校の学校運営協議会の**承認**を得なければならない。（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5 4）

「方針を作成し、承認を得る」**だけ**だと学校も、委員も、地域も家庭も、そして児童生徒も地域課題等を**ジブンゴト**としてとらえられないのではないか？



# 社会に開かれた教育課程の実現のためのツール 「学校・地域連携カリキュラム」とは？



学習指導要領では、教育課程の編成に関して次のように示されています。

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第5章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

この趣旨を踏まえ、本県では「学校・地域連携カリキュラム」を「**社会に開かれた教育課程の視点をもとに、学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したカリキュラム**」と定義し、より一層の充実をめざしています。

## 学校・地域連携カリキュラム

### 学校の基本方針を示す グランドデザイン

#### ビジョン

目的 家庭や地域との理念の共有

盛り込まれる内容

- 中学校区や各学校の教育目標
- 育成をめざす資質・能力
- 重点取組事項
- 育てたい子どもの姿
- 学校・地域の課題



#### 設計図

### 総合的な学習の時間を 核とした9年間の単元配列表

目的 学校教育目標と総合的な学習の時間、各教科等との関連の明確化

盛り込まれる内容

- 児童生徒や学校、地域の実態等に応じた探究課題の設定
- 総合的な学習の時間と各教科等との関連



# 社会に開かれた教育課程の実現のためのツール 「学校・地域連携カリキュラム」とは？



ココがポイント! 1

中学校区等の教育目標を示しましょう!



☆上宇部中学校区 -上宇部小学校・琴芝小学校・上宇部中学校- めざす子どもの姿☆  
地域に愛着をもち、地域のために行動する子ども～明るく 元気に さわやかに～

○宇部市の教育理念○

夢・絆・志 ふるさを愛し、未来を拓く人づくり

☆小中一貫学校教育目標☆

ふるさを愛し、ふるさとの未来を創る子どもの育成

《なにごできるようになるか》

学年	小学校1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校1年	2年	3年	めざす将来の姿
家庭学習の習慣(学習記録簿等)	宿題をする			自分で工夫して、復習をする			自分にあった勉強の仕方を見つけて、続ける			学び続ける
地域行事への参加(地域清掃等)	宿題の確認をする			子どもの自分なりの学習を見守る時には、一緒に考える!			将来に向けて語り合う			
清掃活動への参加(環境美化等)	地域行事に参加する			地域行事を手伝う			地域行事を企画する			地域をつくる
あいさつの習慣(挨拶カード等)	子どもと一緒に地域行事に参加する			子どもと一緒に地域行事を手伝う			子どもに地域行事をらせてみる			みんなが住みよい環境をつくる
あいさつの数値(挨拶カード等)	元気よくあいさつをする		自分から進んであいさつする		時と場に応じたあいさつをする			人となが		
	誰に対してもあいさつをする 家庭の中でも「ありがとう」「おはよう」「おかえり」「おやすみ」を! + あいさつの源「朝ごはん!」									

《どのように進めるか～夢たまごネットを中心に～》

※夢たまごネット:上宇部中学校区(上宇部小、琴芝小、上宇部中)の地域協育ネット協議会のことです。



ココがポイント! 2

家庭、地域、そして子ども等、誰が見てもわかる、わかりやすい言葉で示しましょう。

ココがポイント! 4

学校運営協議会等で育てたい子ども像等について熟議して共有しましょう。



▲熟議の様子

ココがポイント! 3

中学校区等の重点取組事項が何かわかるようにしましょう。



# 育成すべき資質・能力や，中学校区で めざす子ども像等について熟議



2021年7月29日学校運営協議会研修会@美祿市立大嶺中学校



育成すべき資質・能力や，中学校区で  
めざす子ども像等について熟議



「学校・地域連携カリキュラム」

熟議

「学校・地域連携カリキュラム」の再構成

「学校・地域連携カリキュラム」は，完成をめざすことが目的ではなく，あくまで「ビジョンを共有」するためのツール。熟議の過程で，教育活動の質の向上の視点が見えはじめ，学校・地域の「よさ」「こだわり」が明確になります。







# 地域の方と協働で地域課題を解決する ～地域課題等を踏まえた探究課題の設定

総合的な学習の時間の目標については、**学校の教育目標との関連**を図り、**児童生徒や学校、地域の実態に応じて**ふさわしい探究課題を設定することができるという総合的な学習の時間の特質が、各学校の教育目標の実現に生かされるようにしていくことが大切です。

総合的な学習の時間については、内容の設定に際し、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つを定める必要があります。

## 「目標を実現するにふさわしい探究課題」

例えば「**身近な自然環境とそこで起きている環境問題**」、「**地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々**」、「**実社会で働く人々の姿と自己の将来**」等の児童生徒が探究的な学習に取り組む課題です。

## 「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」

各学校において定める目標に記された資質・能力を**各探究課題に即して具体的**に示したものです。

### 岩国ひがし学園小中一貫教育目標

「ふるさとを愛し、  
ふるさとの人々からも  
愛される子どもたちの育成」

### めざす子ども像



ココがポイント!  
地域課題等を踏まえた探究課題の設定  
地域の強み・課題の分析・把握

3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の公共施設の役割と働く人々</li> <li>住みやすい町づくりの工夫</li> <li>町や道具の変化と、これからの自分</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災の大切さと災害に備えたまちづくり</li> <li>自分の成長とそれを支えてくれた人々</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に暮らす外国人と私たちの文化や価値観</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織</li> <li>実社会で働く人々の姿と自己の将来</li> </ul>
7年	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境と環境問題の現状</li> <li>地域の産業の特徴と、働く人々</li> </ul>
8年	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史や生活の発展</li> <li>地域で働く人々の姿と自己の将来</li> </ul>
9年	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の伝統や文化とその継承</li> </ul>



4年「防災の大切さと災害に備えたまちづくり」  
総合的な学習の時間で社会科の学びを發揮する



5年「異文化に触れるイワクニエレメンタリースクールとの交流」  
総合的な学習の時間で外国語科・外国語活動の学びを發揮する



# 地域の方と協働で地域課題を解決する ～地域課題等を踏まえた探究課題の設定



## 『避難訓練』から地域のカリキュラム『防災教育』へ

小・中連携の取組にすれば、小学生の避難を中学生はサポートできるね。

総合的な学習の時間に組み込めるか教務主任に相談してみまじょうか。

最近、夏場の大雨災害は怖いね。スマホで情報のとれるらしいけど…

消防士さんをお願いして、講演会はできんじやろうか。ワシもききたいのお

生徒会活動で市の防災マップを〇〇校区バージョンにしたいな。



子どもたちは当事者意識をもち、地域の担い手に！

# 防府市立富海小中学校の事例

## 地域課題の解決という探究的な学びを核としたカリキュラム・マネジメント～地元の魅力をPRするCM作り



- 人口減少や地元産業等の活性化が課題
- 企業のプロモーション動画を手掛けた経験をもつ市地域おこし協力隊員からの動画制作の指導
- 見た人の心に残るためのアドバイス「発想」「音」「余韻」の3要素が重要
- 生徒たちは、国語、理科、音楽、美術といった、教科等横断的な学びを発揮したCM作り

## ▶▶ 成果

- 「学校・地域連携カリキュラム」は、教育課程編成の方針を共有し、特色のあるカリキュラム（学校の「こだわり」）を見える化することになる。
- 熟議は、子どもに当事者意識を持たせることになり、子ども主体の活動につなげ、地域を愛する子どもを育てることができると期待される。

# ▶▶ 課題と展望

- 学校・地域連携カリキュラムはほぼ全ての学校で作成されているが、行事一覧に留まっているものが多い。
- 熟議の質は、学校間によって差がある。  
（ファシリテーターの実力次第）
- 地域人材をみいだせてないケースもあり、キャリア教育等に生かしきれていない。
- 地域課題を踏まえた探究課題が設定できていないところが多い。（特に中学校）